

林 大 の 風

第17号

高知県立林業大学校

2020 オープンキャンパス

7月18日、19日と2日間に渡り開催したオープンキャンパスが無事終了しました。

例年であれば半日で行っていたオープンキャンパスですが、今年は新型コロナウイルス感染症対策として密な状態を避ける必要があり、午前の部と午後の部に分け、定員を各25名と設定し、二日間で計四回実施しました。

イベントや外出の自粛ムードが広がる中、人が集まるのかという不安でしたが、蓋を開けてみれば2日間で昨年度を上回る林業コース60名、木造設計コース17名の合計77名のご参加をいただきました。

学校の概要説明の中で、今年は初めて選考試験の過去問をお見せし、参加者も熱心に聞いていました。

続いての実演は林業コースと木造設計コースの2組に分かれ、林業コースは実習棟での実演見学、木造設計コースは木造建築模型作りや製図の体験を行いました。

ここからは、本校の研修生の腕の見せどころ。

林業コースのトップバッターを務める専攻課程森林管理コースでは、ドローンを飛ばしたり学校周辺を撮影した空撮映像を放映しました。ドローンを初めて見る参加者も多かったようで、歓声が上がりつかみはばっちりでした。



▶ドローンのレイアウトから研修生が考えました

林業技術コースでは全国の林大で唯一、本校だけが所有する架線シュミレーターを用いた実演を行いました。集材機のオペレーターからは荷掛手が見えないように仕切りをして、無線で連絡を取り合いながら丸太を動かす様子は現場さながら。

そして、オープンキャンパス実演の花形とも言える基礎課程に移り、DJ 峯本の華麗なマイクパフォーマンスのもと、研修生が実演を行いました。

伐倒方向を定めての受け口・追い口切り、枝払いのスピード競争、フォワーダやグラップルの実演などを上手に行い、3ヶ月間の実習でここまで出来るようになるということを参加者も実感できたのではないのでしょうか。



▶枝払いを行う研修生と参加者

一方、木造設計コースでは卒業生に御協力いただき、模型制作などを参加者に指導していただきました。模型制作の隣では、実際に設計製図の講義を行っており、その模様も見学していただきました。

実演が終わった後はフリートーク。



▶距離感のあるフリートーク

「数ある林業学校のなかで本校を選んだ理由は？」といった質問から、「彼女はいますか？」などのドッキリ質問まで、研修生は的確に受け答えできており、見ていて感心させられました。

新しい生活様式が求められる中、オープンキャンパス等のイベントは、大きく形を変えつつあります。これからも様々な手法を検討しつつ、満足度の高いイベントを実施していきたいと考えています。

多数のご参加ありがとうございました。